

令和6年度 主題研究について

飯塚鎮西中学校研修部

1 研究主題

自ら進んで思考・判断し、自己の考えを表現できる生徒の育成
～学習課題設定の場、意見交流の場、考えを再考する場の工夫を通して～

2 昨年度の反省

生徒が「考える」授業にするためには
・生徒同士の交流
・考えるための材料を提供する（2つの説明文・練習やゲームの動画・鑑賞曲）
・学習課題に相手意識をもたせる（相手に説明する・場面設定）
・ICTの活用（動画・共通点や相違点・アドバイス）
という手立てが有効であったと考えられる。

生徒が「考える」授業にするために
・考える活動に適したICTの活用
・考えに根拠をもたせるための手立て
・日常で使えるものにする、使っていけるようにする手立て
・既習内容の復習
・C評価（書けない、考えがもてない）の生徒への支援
などのことを改善する必要がある。

3 本年度の重点

授業づくりの中で

- ①生徒が主体となった授業づくり（教師が話しそぎない、説明しそぎない）
- ②生徒が自ら考える授業づくり（自分の考えの根拠となるものはなにか）
- ③キャリアの視点を明確にした授業づくり（この学習が将来どんなことに役立つか）



そのために、授業づくりをする中で「3つの場」を工夫する。

◎「場」とは何か

空間そのものが何らかの作用（物理的、心理的）をもち、そこに現象を生じさせる
と考えられるとき、その空間を〈場〉と呼ぶ。教師側の問いかけや手立てなどによって、
生徒に考えが生まれたり、考えが変化したりする空間のこと。

①学習課題設定の場

→生徒が「なぜ?」「どうして?」「どうすれば解決できる?」「どう説明すればいい?」
などのように、問い合わせをもつことができる学習課題を設定する。
また、課題を解決するためにはどうすればいいのか、見通しをもたせる場を設定する。

・問い合わせとは…その授業時間のなかで、生徒がもつ「疑問」のことであり、教師から発問や
質問として問い合わせられることによって、生徒が意識するものである。
問い合わせには生徒の思いが込められており、能動性をもっている。

②意見交流の場

→生徒が自分の考えをもったあとに、考えを広げたり深めたりするための場を設定する。

交流の目的をもたせた上で交流の場を設定する。

・**交流の目的**の具体的な例

例1：自分とは違う考えにふれるための交流の場

例2：さまざまな考えの中からよりよいものを1つ選ぶ場

例3：協力して問題解決をするための場

例4：全員の考えを結合して、新しいものを生み出すための場 など

③考え方再考する場

→意見交流のあとに、考え方再考する場を設定する。その際、自分の考えに根拠をもたせる手立て、C評価（書けない、考えがもてない）生徒に対する手立てをうつ。

（例）本時の学習課題、中心発問について再考するために、意見交流の前と後で、自分の考え方の変容が分かるような学習プリントに記述させる。

その際、根拠が明確でない生徒には「問い合わせの発問」（なぜ、どうして？）を行い、C評価の生徒には、「モデル文」や「ヒントカード」などを提示する。

それぞれの場において、より考え方を広げることができるように、タブレットを利用していく。

4 検証の方法

- 提案授業、研究授業における分析
(事後研修会や参観者の参観シート、授業者の振り返りシートによる内容分析)
- 日常的な授業における実践とその分析
- 授業アンケート（教師・生徒）の分析
授業アンケート すべての項目において、平均3・5以上を目指す

5 主題研究の年間計画

月	内 容
5	○ 本年度の主題研究についての提案
6	○ 提案授業および協議会の実施 ○ 夏期休業中の校内研修の計画
7	○ 8月の校内研修の準備
8	○ 校内研修（主題研究・一般研修）
9	○ 研究授業および協議会の実施
10	
11	○ 研究授業および協議会の実施
12	
1	○ 1年間の取り組みに関する振り返りアンケートの実施・集約
2	○ 研究のまとめ作成
3	○ 次年度の研究計画の作成

※個別の授業・検証
については別途
提示

6 研究授業について

(1) 提案授業について

提案授業および事後研修会を実施し、研究授業や個々の授業実践へ繋げる。

(2) 研究授業について

2学期に研究授業（授業公開）を行い、提案授業と同様に事後研修会を実施する。

(3) 日常の授業実践について

提案授業、研究授業、事後研修会をもとに、授業実践を行う。各個人で実践した際の授業構想シート、生徒の記述、実践の記録などは各個人で保管し、振り返りができるようにしておく。それらを集約・分析し、研究のまとめを行う。